

## 第8期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

※「介護保険事業（支援）計画の進捗管理の手引き（平成30年7月30日厚生労働省老健局介護保険計画課）」の自己評価シートをもとに作成

第8期介護保険事業計画に記載の内容				R3年度(年度末実績)		
区分	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
①	今後、さらなる高齢者数の増加が予測されるなか、元気な高齢者を増やしていくために、活力の源となる「生きがいがづくり」を推進していくとともに、社会参加の促進を図っていく必要がある。	高齢者いきがい講座の実施と参加促進 (高齢者いきがい講座は60歳以上の高齢者を対象に学習活動の支援のため各種講座を実施する事業)	高齢者いきがい講座の参加者数 (R2) (R3) (R4) (R5) 参加人数 179 500 520 540 ※R2は推計値、R3以降は目標値	60歳以上の高齢者を対象に学習活動の支援のため各種講座を実施  参加人数 448人	達成率 89.6% ◎	
①	高齢者の社会参加を促進し、自らの健康増進、介護予防に積極的に取り組むことができるよう、介護支援サポーターの登録者数を増やし、サポーターの活動の場を確保していくための取組が必要である。	介護支援サポーターポイント事業の推進 (介護支援サポーターポイント事業は、40歳以上の鯖江市民が「介護支援サポーター」として市内介護施設、市の介護予防事業等でボランティア活動を行った際ポイントを付与し、最大5,000円の交付金を交付する事業)	介護支援サポーターポイント事業の登録者数 (R2) (R3) (R4) (R5) 参加人数 440 460 470 480 ※R2は推計値、R3以降は目標値	「介護支援サポーター」として市内介護施設、市の介護予防事業等でボランティア活動を実施  登録者数 223人	達成率 48.5% △	コロナの影響により、介護支援サポーター受入機関の入場規制やふれあいサロンの中止により、サポーター活動が制限されたことによる登録者数の減少と考えられる。広報誌や社協だより等により制度の周知と登録者数の増加を図る。
①	認知症重度化予防と早期発見、早期対応の仕組みづくりが重要である。	もの忘れ検診の推進と脳の健康度テスト(ファイブコグテスト)を継続的な実施	もの忘れ検診受診率 (R2) (R3) (R4) (R5) 受診率 5.2 8.0 8.1 8.2 ファイブコグテスト 開催回数 1 1 2 2 ※R2は推計値、R3以降は目標値	もの忘れ検診 【対象者】①65歳到達者②71～89歳までの3歳刻み年齢で要介護認定を受けていない者③一般介護予防事業参加者を対象に、健康チェックリストを実施。 【実績】対象者5,609人 回収数3,190人(56.9%)、もの忘れ検診受診率5.4% ファイブコグテスト 開催回数 1回	もの忘れ検診受診率達成率 67.5% △ ファイブコグテスト開催数 100% ◎	コロナ禍により、高齢者の外出や医療機関への受診を控えたことで、受診率が減少した考えられる。もの忘れ検診による認知症の早期発見・早期受診の大切さに関する啓発等が重要である。また、認知機能低下の恐れのある人を含め、継続的なファイブコグテスト実施により医療機関受診のきっかけとする。
①	独居高齢者、高齢者のみ世帯、認知症高齢者の増加に伴い、高齢者虐待や権利擁護を要する困難事例が増加している。 このような状況を踏まえ、地域包括ケアシステムの実現に向け、他職種参加による地域ケア会議の充実を図る必要がある。	地域ケア推進会議の開催 地域ケア個別会議の開催	地域ケア推進会議の開催回数/年 (R2) (R3) (R4) (R5) 開催回数 2 2 2 2 地域ケア個別会議の開催回数/年 10 10 10 10 ※R2は推計値、R3以降は目標値	地域ケア推進会議の開催 2回 地域ケア個別会議の開催 5回	地域ケア推進会議の開催 100.0% ◎ 地域ケア個別会議の開催 50.0% △	地域ケア個別会議の開催は、圏域毎の個別会議が開催できなかったが、令和4年度から、県からの専門派遣事業を活用し、圏域毎の地域包括支援センターが地域ケア個別会議を開催する予定である。